【談話】

東日本大震災 10 年を迎えて

2011 年 3 月 11 日、大津波で瓦礫の街となった光景を目にし、多くの被爆者が、1945 年 8 月の「あの日」見た広島・長崎の原爆地獄の街に引き戻されました。東電福島第一原発事故には「ふたたび被ばく者がつくられた」と涙し、強い怒りに身を震わせました。

日本被団協は、事故後ただちに、原発事故被災者に手帳を交付し健康診断と医療の給付をするよう、政府と福島県に要求しました。これは政府に拒まれ、実現していません。

日本被団協は、2011 年の総会で「原発ゼロ」の社会を目指すことを明確にし、下記の要求実現に努力してきました。

・被災者に対する国と東電の補償
・事故の検証と速やかな収束
・現存する原発の再稼働を許さず廃炉し、新・増設禁止
・原子力に替わる自然エネルギー、再生エネルギー政策への転換
・自然災害、放射線被害から国民の命と暮らしを守れ

10 年たった今、原子力非常事態宣言は解除されていません。青々とした松林と野球場などのスポーツ施設は汚染水タンクや処理施設に変わり、見る影もありません。事故収束の目途もまったく立っていません。事態は 10 年前と変わらないどころか悪くなっています。

東日本大震災 10 年にあたり、あらためて、被災者、国民の皆さんと手を携え、要求を実現し、国民の命と暮らしを守るために尽力する決意を表明します。

2021 年 3 月 11 日

日本原水爆被害者団体協議会
事務局長　木戸季市